

佐賀県立九州シンクロトン光研究センター サービス向上委員会
評価報告書の概要(最終確認中)

佐賀県立九州シンクロトン光研究センター（以下「センター」という。）は、2006年（平成18年）2月に運用を始めた放射光を利用した県有の試験研究施設である。これまでに有田焼や緑茶、日本酒といった県産品の分野、半導体や誘電体といった最先端の産業技術の分野で、県内産業、地域産業の発展に貢献している。当該施設のうち県有ビームラインの稼働率が上がっておらず、県内企業の利用も広がっていないという現状があることから、利用の促進がセンターの課題となっている。

本委員会においては、センターの現状と課題をふまえて、利用を促進するためにセンターが行っている取組について評価し、見直しの必要があるものについては改善案や代替案を提案した。

(報告書の概要)

第1	「ニーズの把握と分析」 ●利用者アンケート・ヒアリングの肯定的・否定的回答もその理由を深掘りするなどして、センターの課題を見出し、継続して改善すべき
第2	「サービスの向上」 ●利用料金について、県内料金でも中小企業向けにより安価な利用料金とすべき ●大学は研究費も限られている中、県内大学の利用料金については、再考すべき ●ビームラインの今後の方向性については、別途検討する会議体を設けるべき
第3	「PRの推進」 ●各ビームラインの特徴もPRすべき ●PRに使う企業利用情報については、最初から公開を断念するのではなく、積極的に公開を促し、極力公開できるように努めるべき ●産業利用コーディネーターの活動は有効に機能しており、近隣県までその活動範囲を広げるべき ●佐賀大学を中心として、大学との連携を広げるべき(組織的なつながりとなるまで発展するよう努めるべき) ●九州・沖縄の企業の利用も促進するために、九州・沖縄各県の公設試とも連携を強化すべき ●広報のやり方にはもっと工夫があつてよい
第4	「研究員の確保と支援」 ●新たな研究員の確保は難しいだろうが、研究員の技能向上や作業環境の整備など、引き続きできることから研究員の支援を実施してほしい
第5	「財源の確保」 ●国からの直接補助も活用すべき

○最後に、センターの存在意義や運営のあり方について委員からご意見をいただいている。

- ・産業界における開発技術は年々高度化しており、当センターの存在価値は大きい。
- ・当センターの主目的である「産業利用」という観点から見た場合、同種のセンターである「あいちシンク ロトン光センター」と比較すると、稼働率向上のためにまだ取り組む余地がある。
- ・その一つとして、佐賀県立の施設であるものの、九州圏域まで利用者を募るよう取り組むべき。
- ・当センターに改善の取組を期待するばかりでなく、県としても地域産業の発展のために積極的に施策に取り組むべきである。